

日本学術会議 公開シンポジウム

パリ協定を踏まえた

今後のエネルギー・温暖化対策のあり方

日時：平成28年5月18日(水) 13:00～17:20

会場：日本学術会議 講堂

東京都港区六本木 7-22-34 (東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5番出口)

参加費：無料 (先着順 定員300名、事前申込不要 \*入場時にお名刺またはご記帳いただきます)

#### 開催趣旨

2015年パリで開催されたCOP21において、2020年以降の気候変動対応の国際枠組みとなるパリ協定が合意されました。パリ協定では、全球平均気温上昇を産業革命以前比で2℃未満に十分に抑えるなどの長期目標も合意され、長期的に大幅な排出削減をより一層進めていく必要性が高まっています。それに先立ち、日本政府は大幅な省エネルギー、省電力を見込んで、2030年に2013年度比26%削減するという目標を策定しました。省エネルギーをいかに実現していくか

は、排出削減の実効性を高めるために、またそれに続く長期的な目標達成への道においても極めて重要になります。そこで本シンポジウムは、合意されたパリ協定で目指すこととなった排出削減目標をよく理解し、その上で、省エネルギー対策をはじめとした大きな挑戦にあたって、その課題と機会についての議論を行います。それによって、より有効な省エネルギー、温暖化対策を見出すことを目的に開催します。

#### 13:00

開会挨拶 鈴置保雄 日本学術会議第3部会員、名古屋大学 大学院 工学研究科 教授

#### 13:05

「我が国のエネルギー・温暖化対策 (課題提起)」

山地憲治 日本学術会議連携会員、公益財団法人 地球環境産業技術研究機構理事・研究所長、東京大学名誉教授

#### 13:20

「省エネルギーをめぐる課題と機会 (経済的視点から)」

野村浩二 慶應義塾大学 産業研究所 准教授

#### 13:45

「省エネルギーをめぐる課題と機会 (政策の事後評価)」

木村宰 一般財団法人 電力中央研究所 主任研究員

#### 14:10

「省エネルギーをめぐる課題と機会 (長期エネルギー需給見通しの課題)」

杉山大志 日本学術会議特任連携会員、一般財団法人 電力中央研究所 上席研究員

#### 14:35

「約束草案の国際的な位置づけと長期排出経路」

秋元圭吾 日本学術会議連携会員、公益財団法人 地球環境産業技術研究機構 システム研究グループ グループリーダー

#### 15:00

「気候変動影響、気温上昇目標と約束草案との関係性」

江守正多 日本学術会議連携会員、国立研究開発法人 国立環境研究所 地球環境研究センター 気候変動リスク評価研究室 室長

#### 15:25

休憩

#### 15:40

総合討論

司会：山地憲治 パネリスト：野村浩二、杉山大志、江守正多、秋元圭吾、小宮山涼一 (日本学術会議特任連携会員、東京大学 大学院 工学系研究科 准教授)

#### 17:15

閉会挨拶

- 主催 日本学術会議 総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会
- 共催 一般社団法人 エネルギー・資源学会
- 後援 一般社団法人 日本エネルギー学会、環境経済・政策学会
- 問合せ先 公益財団法人 地球環境産業技術研究機構 秋元圭吾 E-mail: aki@rite.or.jp